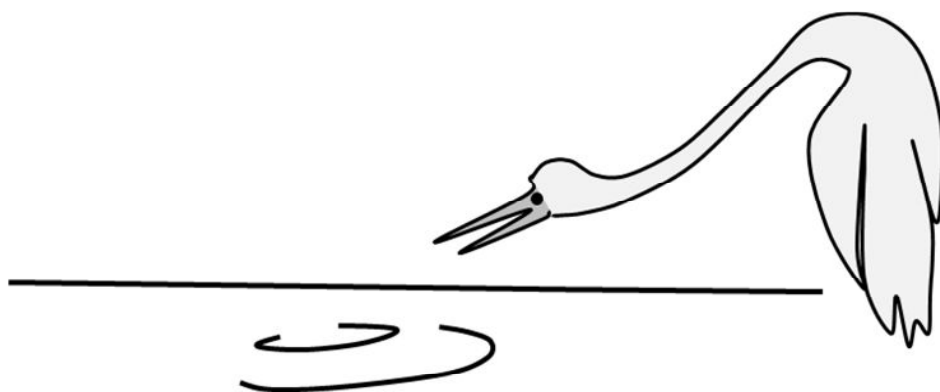


とくていぎのう
特定技能

ぎよぎようぎのうそくていしけん ぎよぎよう がくしゅうよう て き す と
漁業技能測定試験（漁業）学習用テキスト

ぎよぎよういっばんかんけい
（漁業一般関係）



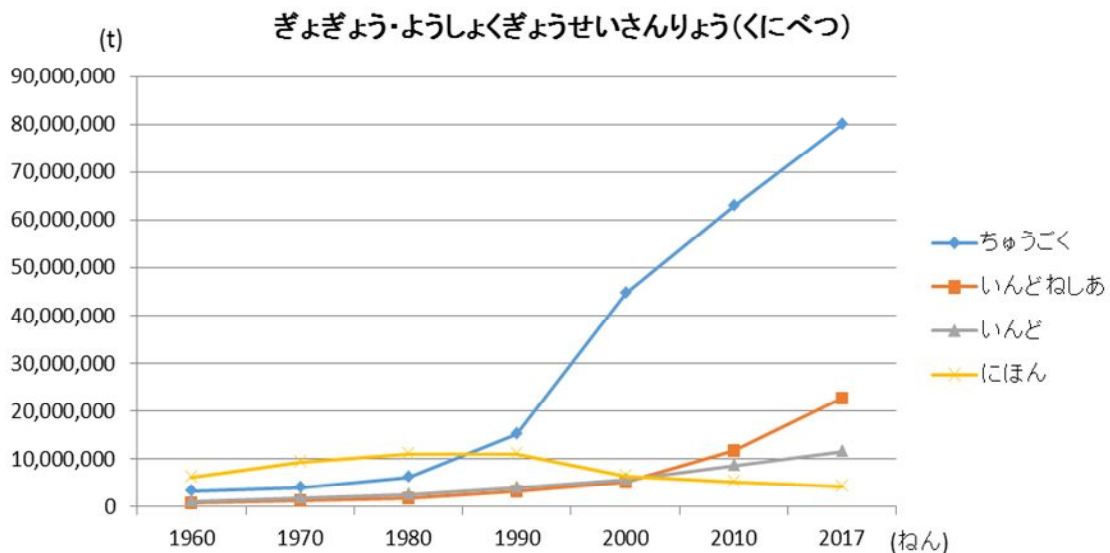
いっばんしゃだんほうじんだいにほんすいさんかい
一般社団法人大日本水産会

しょはん ねん がつ
（初版2019年12月）

もくじ
目次

せかい ぎょぎょう ようしょくぎょうせいさんりょう	
1. 世界の漁業・養殖業生産量	1
にほん ぎょぎょう ようしょくぎょうせいさんりょう	
2. 日本の漁業・養殖業生産量	2
にほん ぎょかく おも さかな	
3. 日本で漁獲される主な魚	4
ぎょせん	
4. 漁船	6
ぎょせん のりくみいん	
5. 漁船の乗組員	7
こんばす かいず こうほう	
6. コンパス、海図、航法	8
かいりゅう たいりくだな	
7. 海流、大陸棚	11
ぎょぎょうようご	
8. 漁業用語	13
あみじ	
9. 網地	14
むす	
10. ロープの結び	18
はし しょり	
11. ロープの端の処理	21
つりばり	
12. 釣針	24
ぎょろうきき	
13. 漁労機器	26
ぎょぐんたんちき	
14. 魚群探知機	34

せかい ぎょぎょう ようしょくぎょうせいさんりょう
1. 世界の 漁業・ 養殖業 生産量
 せかい ぎょぎょう ようしょくぎょう あ せいさんりょう ぞうか つづ せかい
 世界の 漁業・ 養殖業 を合わせた 生産量 は増加し続けている。世界の
 ぎょぎょう ようしょくぎょうせいさんりょう おく まん とん ねん
 漁業・ 養殖業 生産量 は2億559万トン（2017年）となり、この
 ぎょせんぎょぎょうせいさんりょう ねんだいこうはんいこう よこ けいこう
 うち漁船漁業生産量は1980年代後半以降は横ばい傾向となっている。
 くにべつ み ぎょぎょう ようしょくぎょうせいさんりょう もっと おお くに じょうい ちゅうごく やく
 国別に見た漁業・養殖業生産量の最も多い国は上位より、中国（約8,000
 まん いんどねしあ やく まん いんど まん じゅん つづ
 万t）、インドネシア（約2,200万t）、インド（約1,150万t）の順に続いている。
 ず
 （図1）



ず ぎょぎょう ようしょくぎょうせいさんりょう くにべつ
 図1 漁業・養殖業生産量 (国別)

しゅってん へいせい ねんどすいさんはくしょ さくせい
 (出典：平成30年度水産白書より作成)

2. 日本の漁業・養殖業生産量

漁業は動物性タンパク質の魚介類を広く国民に供給する産業として発達し、独自の食文化を形成してきた。また、水に住む生物を採捕・漁獲する漁業は、自然条件の影響を強く受け、対象生物に適応した漁船や漁具が使用されるため、漁獲技術は様々である。日本の漁業は、主に沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業、海面養殖業、内水面漁業・養殖業が存在する。1984年をピークに1995年頃にかけて生産量が急速に減少し、その後は緩やかな減少傾向が続いている。(図2、図2-1)

・沿岸漁業

沿岸で小さな漁船を使い行う漁業。定置網や養殖業も含まれる。

・沖合漁業

主に日本の200海里(マイル)水域内で操業する漁業。

・遠洋漁業

主に日本の200海里(マイル)水域外で操業する漁業。

・海面養殖業

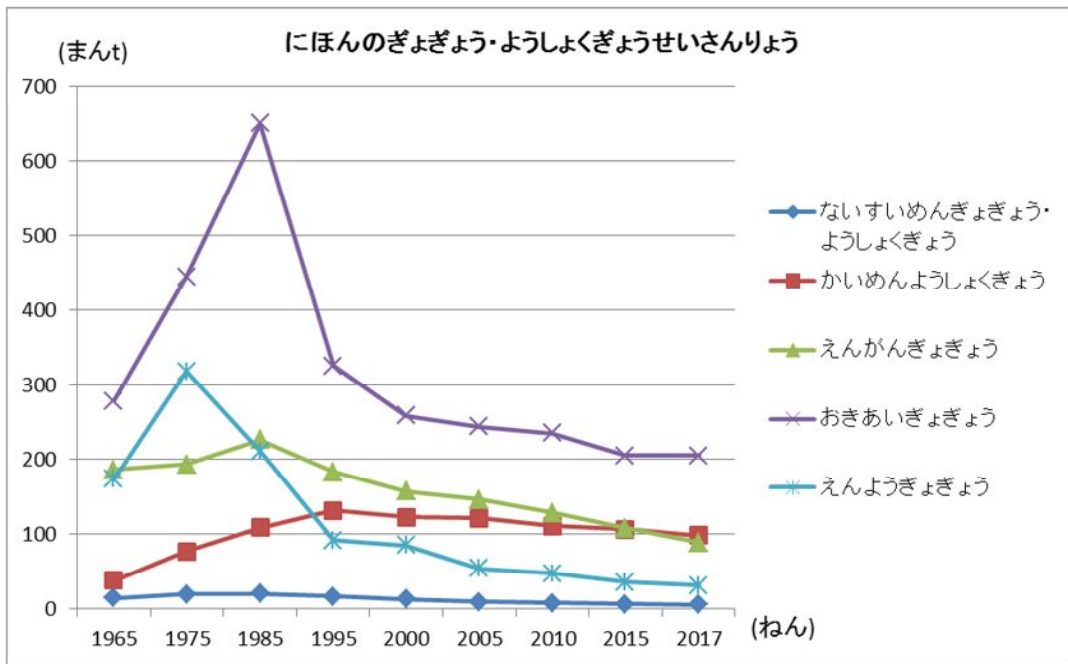
海面に設置した生簀等を用いて魚介類を人工的に育て、漁獲する漁業。

・内水面漁業

淡水(川や湖)で行う漁業。

・内水面養殖業

淡水(川や湖)に設置した生簀等を用いて魚介類を人工的に育て、漁獲する漁業。



ず にほん ぎよぎょう ようしょくぎょうせいさんりょう
 図2 日本の漁業・養殖業生産量
 しゅってん へいせい ねん どすいさんはくしょ さくせい
 (出典：平成30年度水産白書より作成)

にほん ぎよぎょう ようしょくぎょう せいさん りょう ねん
 日本の漁業・養殖業生産量(2017年)











	(まんt)
ないすいめんぎよぎょう・ ようしょくぎょう	6
かいめんようしょくぎょう	99
えんがんぎよぎょう	89
おきあいぎよぎょう	205
えんようぎよぎょう	31











ず にほん ぎよぎょう ようしょくぎょうせいさんりょう ねん
 図2-1 日本の漁業・養殖業生産量(2017年)
 しゅってん へいせい ねん どすいさんはくしょ さくせい
 (出典：平成30年度水産白書より作成)

3. 日本で漁獲される主な魚

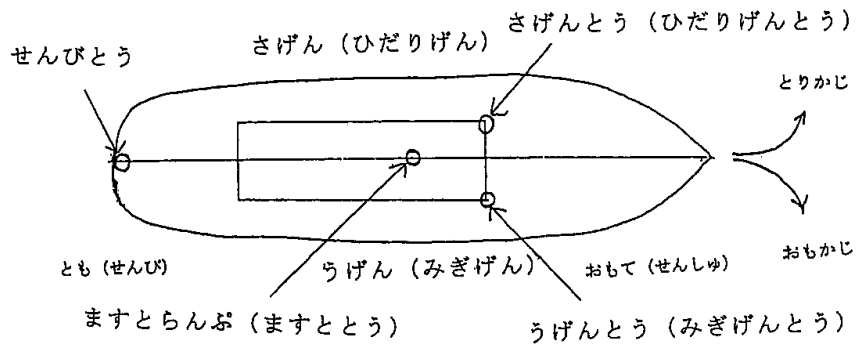
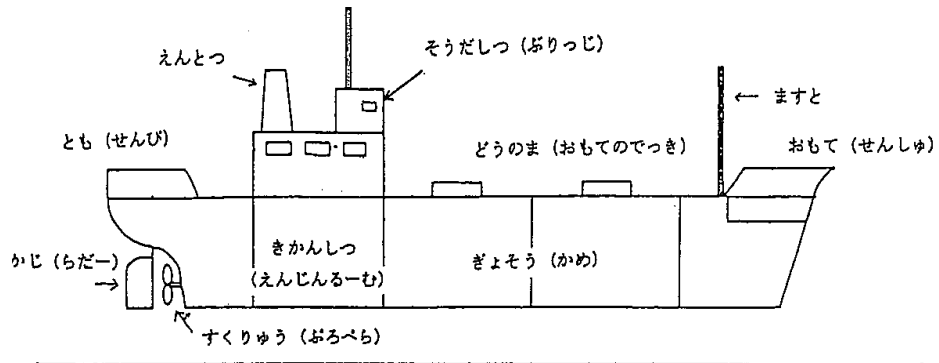
南北に長い日本の沿岸には多くの暖かい海や冷たい海が流れ、その周辺水域では様々な魚が漁獲される。魚種によって生息する海の深さは違い、海の表面近くには、かつお、いわし、まぐろ、すずきなどが主に生息し、海底近くでは、かに、たら、えび、いかなどが生息している。

以下は日本近海で漁獲される主な魚の一部である。

	
あんこう	にしん
	
かに	ほっけ
	
えび	ぶり
	
あじ	さば
	
いわし	たい

	
さけ	ひらめ
	
たら	かつお
	
まぐろ	ふぐ
	
かじき	さんま
	
さわら	いか

ぎよせん
4. 漁船



かじと
舵取り

おもかじ かじ みぎ

面舵：舵を右にとる

と かじ かじ ひだり

取り舵：舵を左にとる

こうかいとう いろ
航海灯の色

ますとらんぷ (ますととう) : しろ

せんびとう : しろ

さげんとう : あか

うげんとう : みどり

ふね ゆ かた
船の揺れ方

たてゆ びっちんぐ
縦揺れ：ピッチング

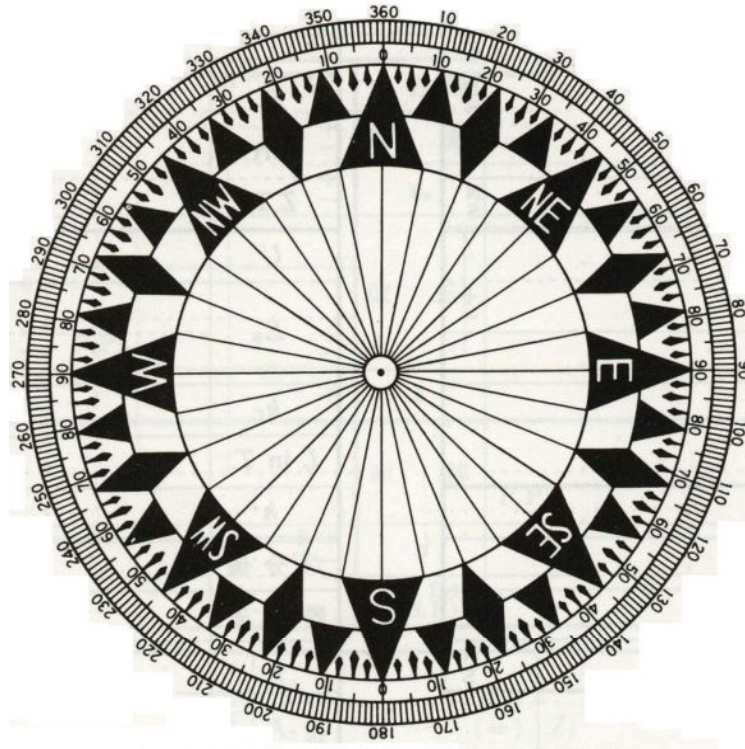
よこゆ ろーりんぐ
横揺れ：ローリング

ぎよせん のりくみいん
5. 漁船の乗組員

ぎよろうちよう せんどう 漁労長（船頭）	そうぎようぜんたい せきにんしゃ せんちよう ぎよろうちよう か 操業全体の責任者。船長が漁労長を兼ねることもある。
せんちよう 船長	ふね うんこう せきにんしゃ 船の運航の責任者。
きかんちよう 機関長	えんじん れいとうき せきにんしゃ エンジン、冷凍機などの責任者。
こうかいし 航海士	せんちよう ほさ ふね うんこう しごと おこな 船長を補佐し、船の運航の仕事を行う。
きかんし 機関士	きかんちよう ほさ きかい かんり おこな 機関長を補佐し、機械の管理を行う。
つうしんちよう 通信長	むせんつうしん せきにんしゃ 無線通信の責任者。
こうはんちよう 甲板長	こうはんいん しき おこなう 甲板員の指揮を行う。
れいとうちよう 冷凍長	ぎよかくぶつ しより れいとうこ かんり おこな 漁獲物の処理や冷凍庫の管理を行う。
しちゆうちよう 司厨長 こつくちよう (コック長)	せんいん しょくじ つく 船員たちの食事を作る。
こうはんいん 甲板員	ふね とうちよく こうはん でつき さぎよう ぎよろうさぎよう れいとうさぎよう 船の当直、甲板（デッキ）の作業、漁労作業、冷凍作業な おこな どを行う。
きかんいん 機関員	きかん さぎよう ほか ぎよろう れいとうさぎよう ほさ 機関の作業の他、漁労や冷凍作業を補佐する。

6. コンパス、海図、航法

(1) コンパス



コンパスは船の位置を割り出したり、コース (進路) を決めたりする重要な道具である。主な箇所にローマ字でマークが記載してある。

N : (北)

NE : (北東)

E : (東)

SE : (南東)

S : (南)

SW : (南西)

W : (西)

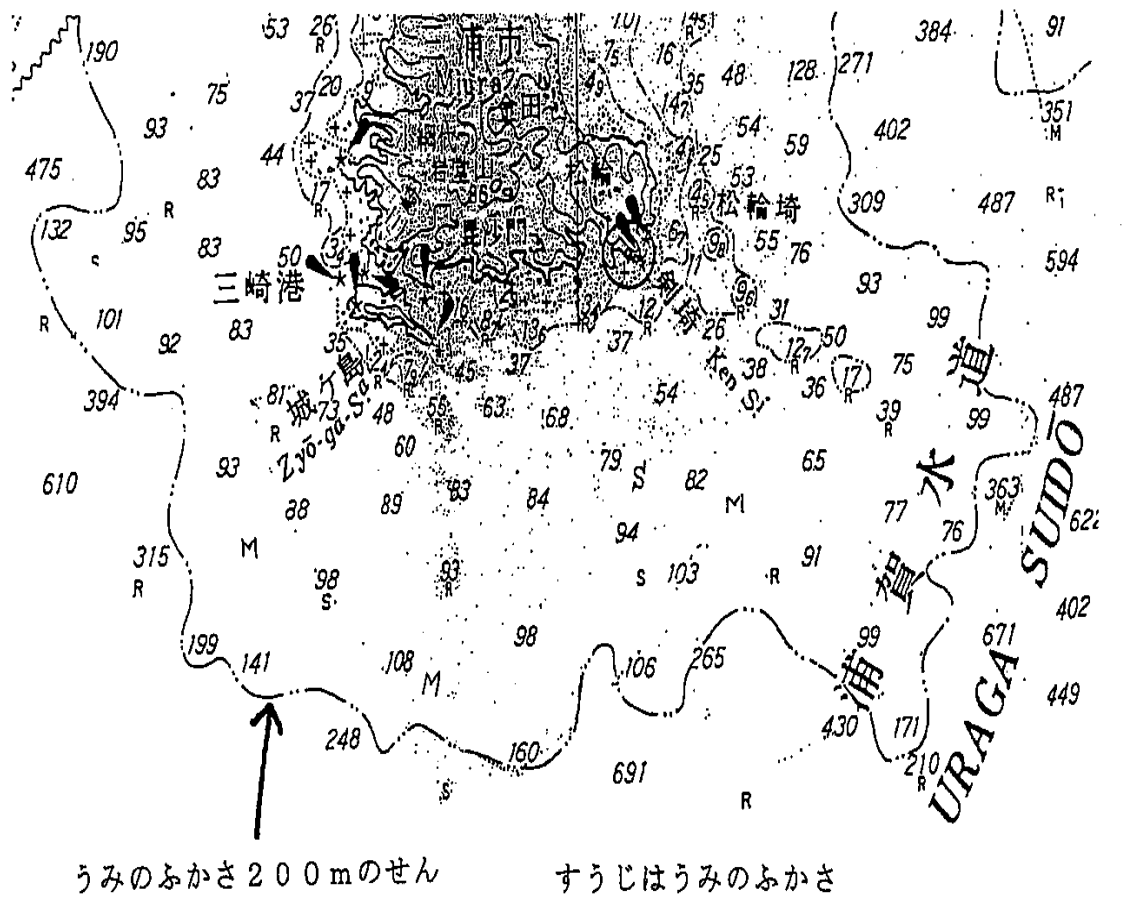
NW : (北西)

(2) 海図

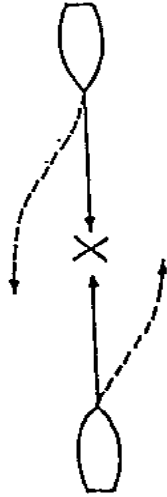
かいず うみ ふか ちようりゆう ほうこう こうかい ひつよう か ず
 海図とは、海の深さ、潮流の方向など、航海をするのに必要なことを描いた図。

かいず かいてい しつ きさい
 海図には海底の質も記載している。

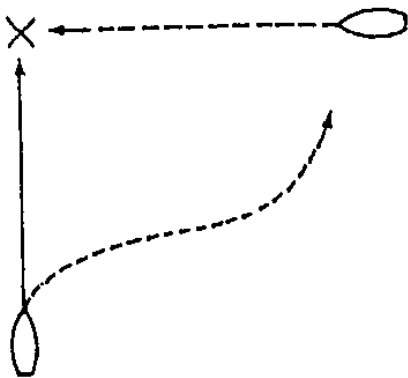
S : すな 砂 M : どの 泥 R : いわ 岩



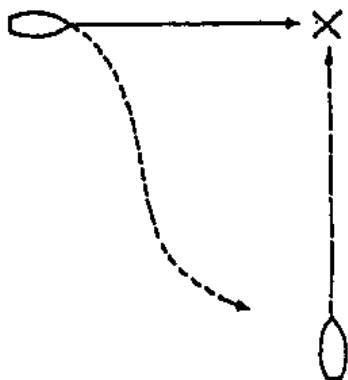
こうほう
(3) 航法



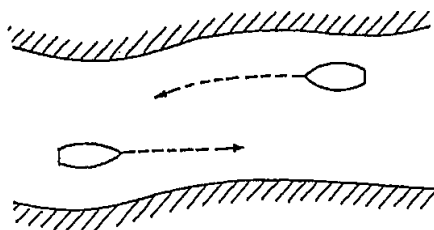
- しょうめん ふね き ばあい みぎ かじ よ
- ・正面から船が来た場合は右に舵をとって避ける。



- まえ よこぎ ふね き ふね みぎ み
- ・前を横切る船が来たときは、その船が右に見えるときには右に舵をとるか、速力を落として避ける。
- みぎ かじ そくりょく お よ



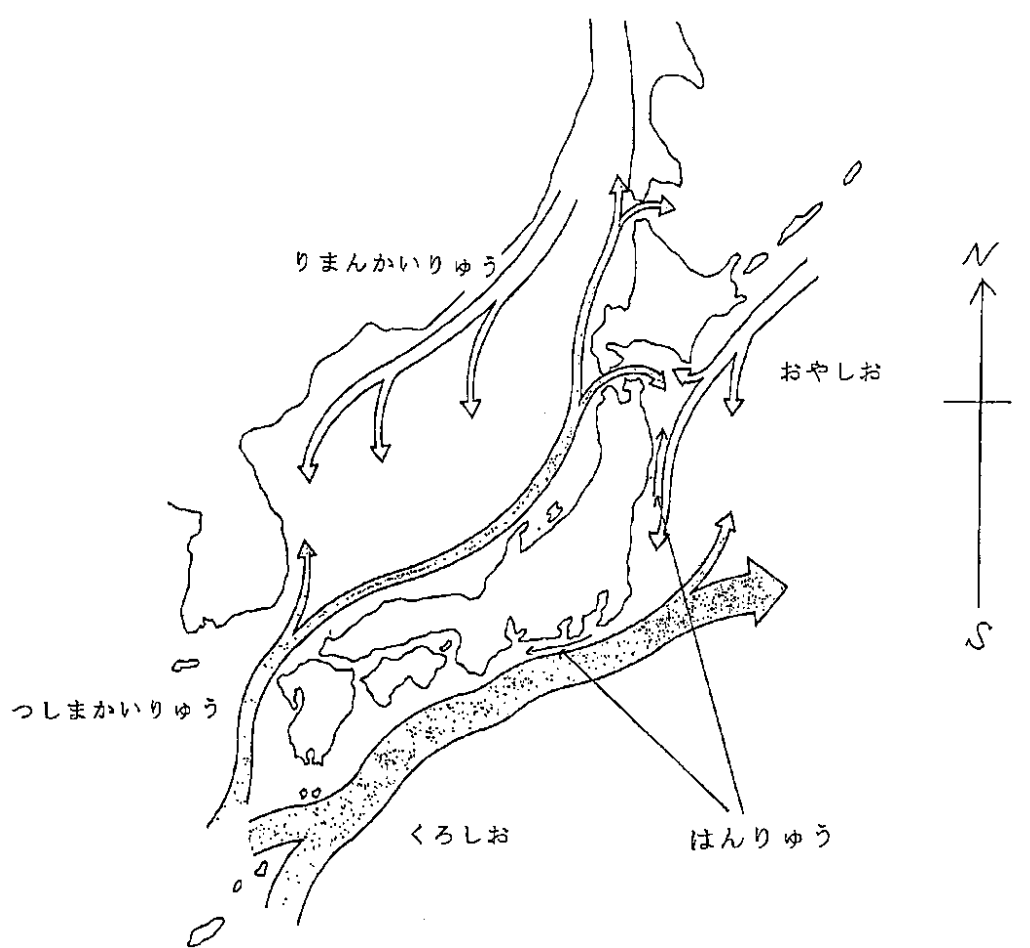
- ひだり まえ よこぎ ふね ばあい ふね よ
- ・左から前を横切る船が来た場合は、その船が避けるため、直進する。ただし、相手の船が正しく避けるか十分気を付ける。
- ちよくしん あいて ふね ただ
- よ じゅうぶん き つ



- ふね みぎがわつうこう きほん
- ・船は右側通行が基本である。

かいりゅう たいりくだな
 7. 海流、大陸棚

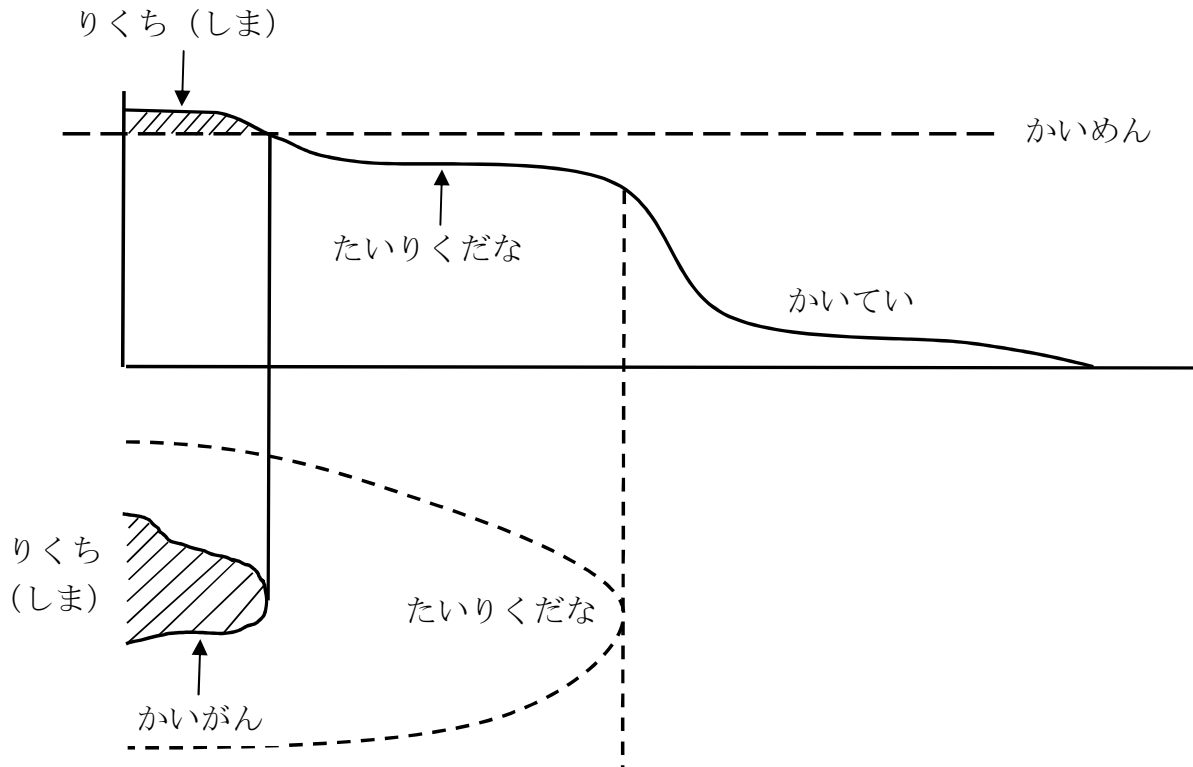
かいりゅう
 (1) 海流



にほんしゅうへん かいいき みなみ だんりゅう くろしお つしまかいりゅう きた かんりゅう おやしお
 日本周辺の海域には南から暖流の黒潮、対馬海流、北から寒流の親潮と
 りまんかいりゅう かいりゅう なが えんがん おき おも かいりゅう はんたいほうこう
 リマン海流の4つの海流が流れている。沿岸では沖の主な海流とは反対方向
 なが せんざい はんりゅう
 の流れが存在し、これを反流という。

たいりくだな
(2) 大陸棚

しま たいりく まわ たい あさ うみ かこ ぼしょ たいりくだな
島や大陸の周りは平らな浅い海に囲まれており、そのような場所を大陸棚とい
たいりくだな くに たいせつ ぼしょ よ ぎょじょう
う。大陸棚は国にとって大切な場所であり、良い漁場ができるところでもある。



ぎょぎょうようご 8. 漁業用語

あかしお

赤潮：

みず なか ぶらんく とん とく しょくぶつ ぶらんく とん ふ みず いろ あかいろ
水の中でプランクトン（特に植物プランクトン）が増えすぎ、水の色が赤色や
ちやいろ へんか あかしお ふ ぶらんく とん すいちゆう さんそ おお
茶色に変化することを赤潮という。増えたプランクトンは水中の酸素を多く
しよう さかな つ さかな かい しぼう ぎょぎょう おおきなえいきょう
使用し、また、魚のえらに詰まることで魚や貝が死亡し、漁業に大きな影響
あた
を与える。

えいようえん

栄養塩：

えいようえん せいぶつ い ひつよう ちっそ りん
栄養塩とは生物が生きていくために必要なチッソ（N）、リン（P）、
けいそ
ケイ素（S i）などのことをいう。

ふえいようか

富栄養化：

ふえいようか みず なか ちっそ りん けいそ ふ
富栄養化とは水の中でチッソ（N）、リン（P）、ケイ素（S i）などが増えす
ぎ りん げんいん
ぎることをいう。これらを多く含む工場や家庭の水を捨てるのが原因である。

かいようおせんぼうし

海洋汚染防止：

うみ あぶら つち ぶらす ちっく ごみ つか ぎょぐ す うみ おせん
海に油、土、プラスチック、ゴミ、使わなくなった漁具などを捨てるとうみを汚染
おせん ふせ うみ す
することにつながる。汚染を防ぐため、これらのものを海に捨ててはいけない
ほうりつ き
ことが法律で決められている。

ゆうしやうりゆう

湧昇流：

ゆうしやうりゆう かいていちか みず かいめん のぼ かいめん のぼ
湧昇流とは海底近くの水が海面に昇ってくることをいう。海面に昇ってきた
みず すいおん ひく えいようえん おお ぶらんく とん おお あつ よ ぎょじょう
水は水温が低く、栄養塩が多いためプランクトンが多く集まり良い漁場となる。

かいすい えんぶん
海水の塩分：

かいすい ふく しお りょう かいすい ちゅう すう
海水に含まれている塩などの量。海水1000g(ぐらむ)中のぐらむ数(%
ぱーみる)であらわ かいすいちゅう えんぶん りょう いっぽんてき やく
らで表す。海水中の塩分の量は一般的に約33~37% (33~3
7g/1000g)である。

あみじ
9. 網地

あみじ こうぞう
(1) 網地の構造

あみじ けっせつ う む けっせつあみ むけっせつあみ わ けっせつあみ
網地は結節の有無により、結節網、無結節網に分けられる。結節網では、ひと
あみめ こ けっせつ ほん あし ず むけっせつあみ けっせつ か あみ
つの網目4個の結節と4本の脚からなる(図3)。無結節網では、結節の代わりに網
いと こうさぶなど ほんめけっせつ けっせつ
糸の交差部等がある。本目結節はずれやすく、かえるまた結節はずれにくい。



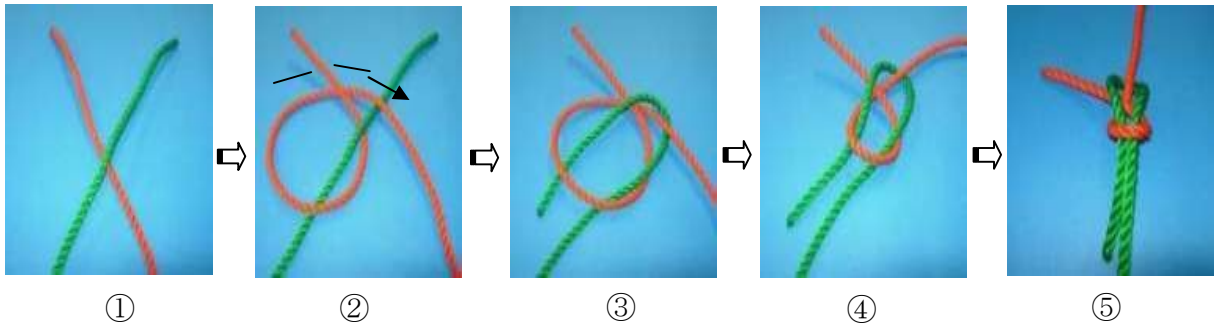
ず あみじかくぶ こうしょう
図3 網地各部の呼称

いと
(2) 糸のつなぎ方

もつと かんたん いっぽんてき むす かた ず しめす できあ かえるまたけっせつ ろーぶ
最も簡単で一般的な結び方を図4に示す。出来上がりは蛙又結節、ロープの

しーとべんど おな すべ いと ぼあい ず わ かいづく ふたえ
シートバンドと同じである。滑りやすい糸の場合は、図4の②で輪を2回作る二重

むす もち
結びを用いる。



ず いっぱんてき むす かた
図4 一般的な結び方

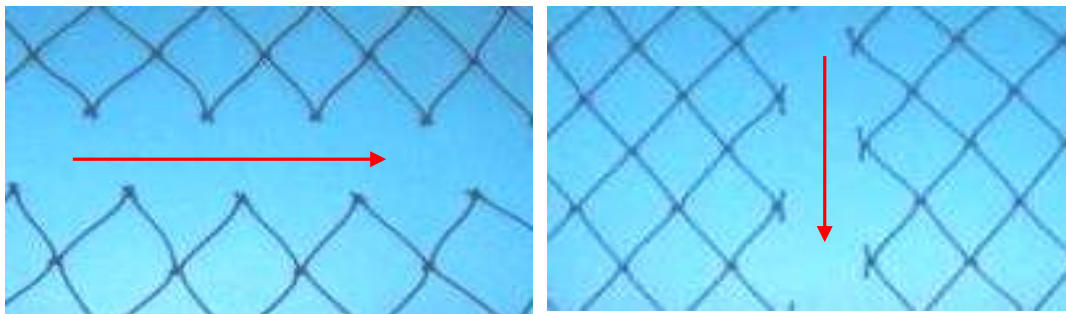
あみじ つな ほうこう
(3) 網地を繋ぐ方向

つ なが ほうこう
はな継ぎ (長さ方向) :

ず ひだり なが ほうこうどうし つな ばあい あみじはし けっせつぶ あみいと ほん いと
図5左のように長さ方向同士で繋ぐ場合、網地端の結節部の網糸は1本の糸である。この場合はかえるまで繋ぎ最初と最後は二重かえるまたにする。テグスの
ばあい すべ にじゅう つな
場合は滑りやすいので二重かえるまでしっかり繋ぐ。

わきせつあ かけめほうこう
脇節合わせ (掛目方向) :

ず みぎ かけめほうこう つな ばあい ほんめ つな さいしょ さいご にじゅう
図5右のように掛目方向に繋ぐ場合、本目で繋ぎ最初と最後は二重かえるまたにする。この場合は、端の結節の2脚の糸は連続していないので、必ず結節をは
こ し
さみ込んで締める。



ず あみじ つな かた ひだり つ みぎ わきせつあ
図5 網地の繋ぎ方：左 はな継ぎ、右 脇節合わせ

あみじ ぬ あ かた
 (4) 網地の縫い合わせ方

まい あみじ ぬ あ かた あ あ ふた ほうほう
 2枚の網地の縫い合わせ方には、「合わせ」と「かき合わせ」の二つの方法がある。合わせとは2枚の網地の端の結節を結びながら縫い合わせる方法、かき合せとは結び目を作らずかがっていくだけの方法をいう。2枚の接し方により「山山」、「山谷」、「谷谷」の別がある(図6)。



やまやま あ
 山山かき合わせ
 (3回巻き)



たにたに あ
 谷谷かき合わせ
 (3回巻き)



やまやま あ
 山山合わせ



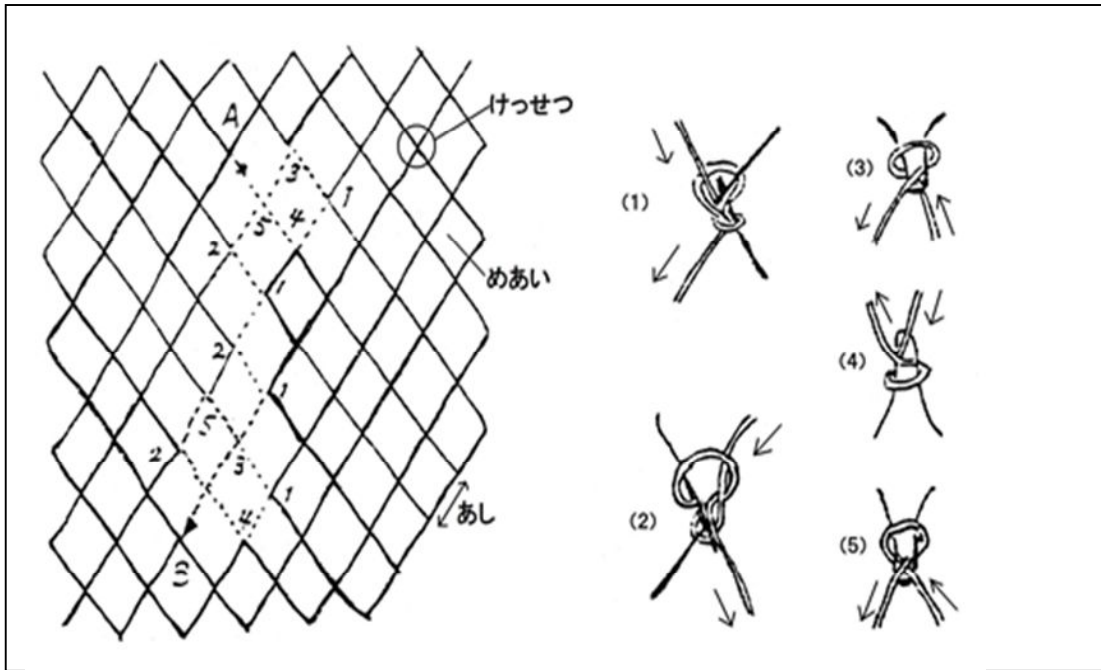
やまたに あ
 山谷合わせ

ず あみじ あ ほう
 図6 網地のかき合わせ法

やぶ あみじ きほんてき しゅうぜんほうほう ほんしゅうぜんおよ わた しゅうぜん しゅうぜん
 また、破れた網地の基本的な修繕方法として、本修繕及び渡り修繕の修繕方法を次に示す。

ほんしゅうぜん
 ・本修繕

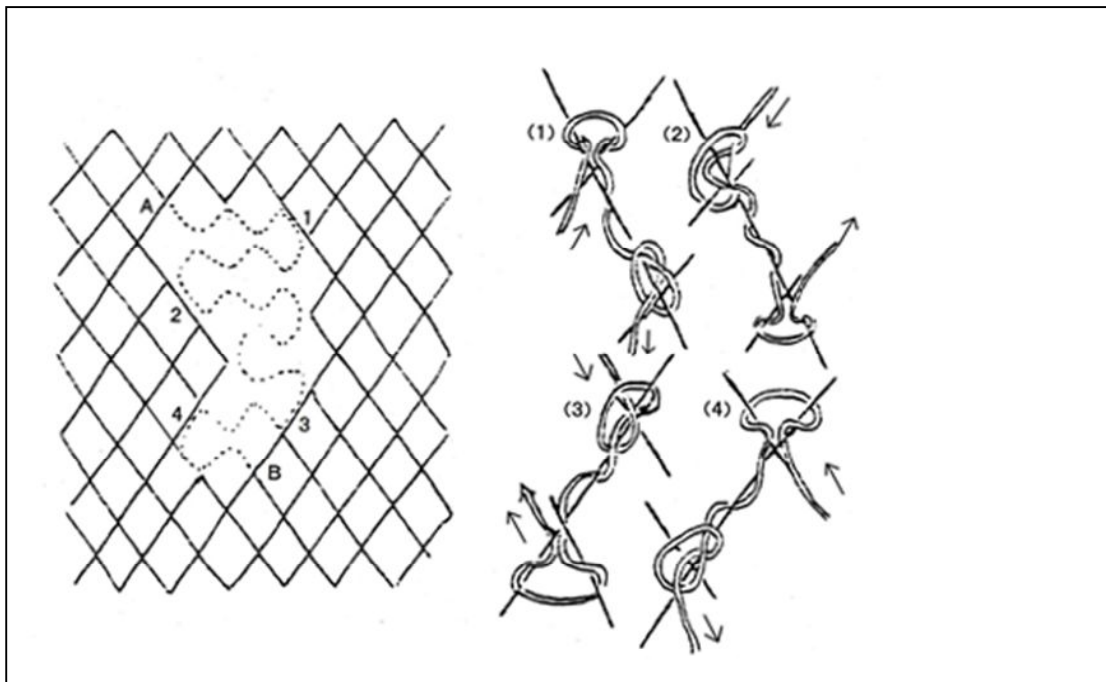
あみじ おな ふと いと つか おな けつせつおよ め あ しゅうり ぬ め
 網地と同じ太さの糸を使い、同じ結節及び目合いにしながら修理する。縫い目はめだ しゅうり じかん よう ず
 目立たないが修理に時間を要する。(図7)



ず ほんしゅうぜん あぼり はこ かた
 図7 本修繕と網針の運び方

わた しゅうぜん
 ・渡り修繕

やぶ あみ まわ せいり しゅうり ほうほう ぬ め めだ しゅうり
 破れた網の周りを整理することなく修理する方法。縫い目は目立つが修理にあ
 じかん よう ず
 まり時間を要しない (図8)。



ず わた しゅうぜん あぼり はこ かた
 図8 渡り修繕と網針の運び方

10. ロープの結び

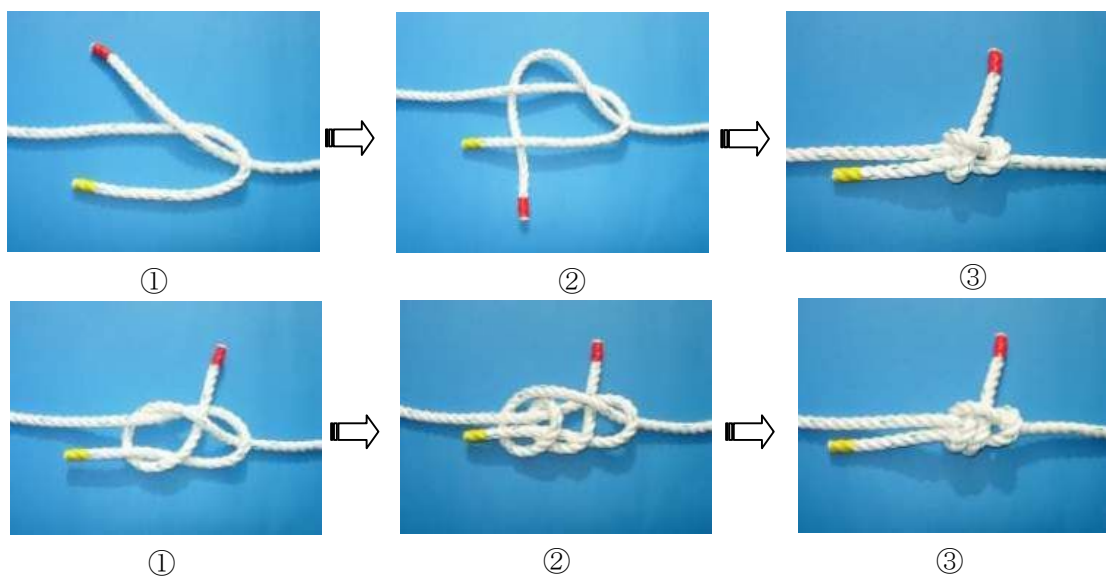
(1) ひとえ結び

基本形で簡単な結びである。ロープが一旦締まると解くのがむずかしい。



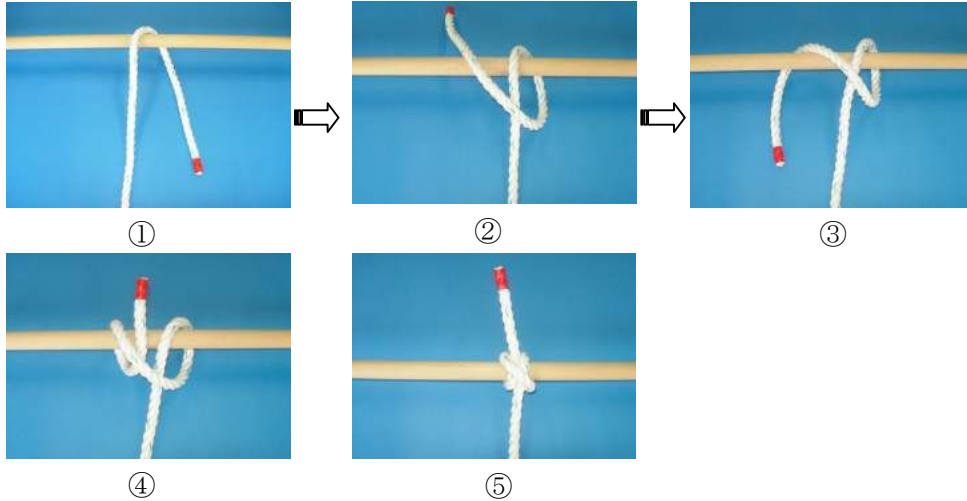
(2) ひとつなぎ

同じ太さの2本のロープの端と端を繋ぐときに使われる。使用度が多い大切な結び方である。上がひとつなぎ（シングル・シート・ベンド）、下がふたえなぎ（ダブル・シード・ベンド）。ロープの太さが違うときやすべりやすいロープの場合は、ダブル・シード・ベンドを用いる。



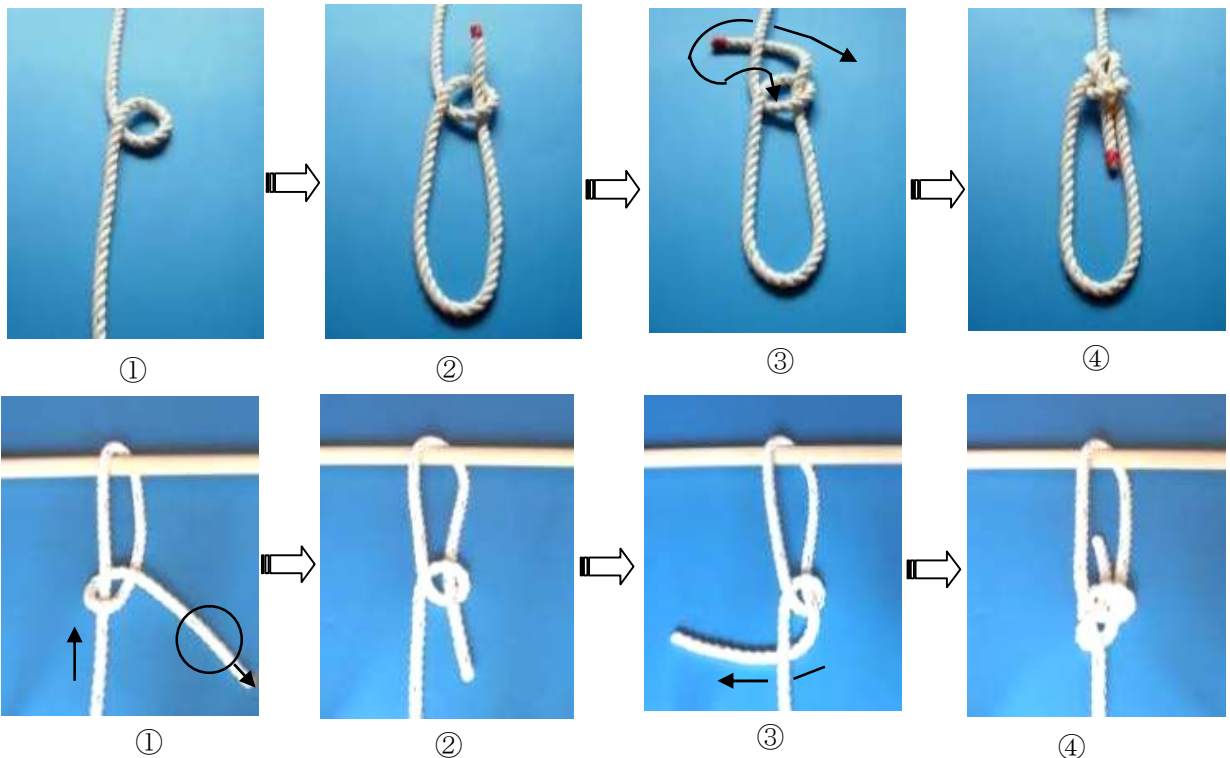
（3）まき結び

ぼうじょう 物^{むす}の ろーぷ はし いちじてき と おお つか こがたせんぼく
棒状の物にロープの端を一時的に止めるときに多く使われる。小型船舶では
びつとなど いちじてき と つか し ほど ばあい
ビット等に一時的に止めるときに使われる。締まると解きにくくなる場合がある。



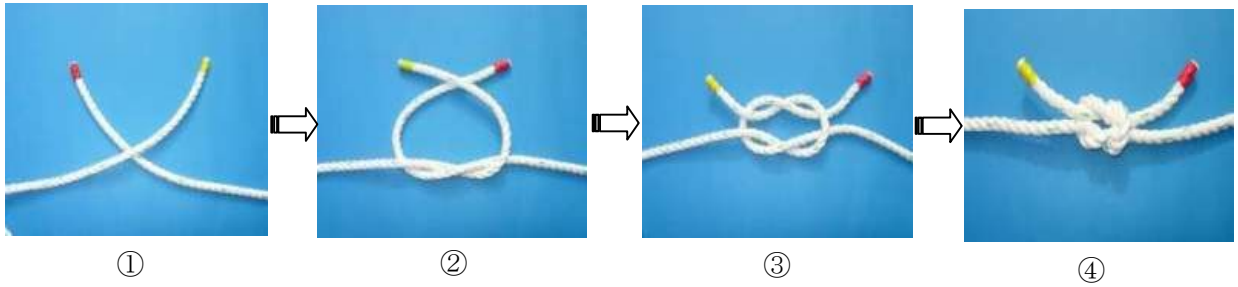
（4）もやい結び

ろーぷ びつと と など つか あんぜん かくじつ むす かた
ロープをビットに止めるとき等に使われる。安全で確実な結び方である。しか
も ほど 解きやすいので船舶でも多く使われる結び方である。物にロープを掛けない結
かた か むす かた て うご こと
び方と掛ける結び方では手の動きが異なる。



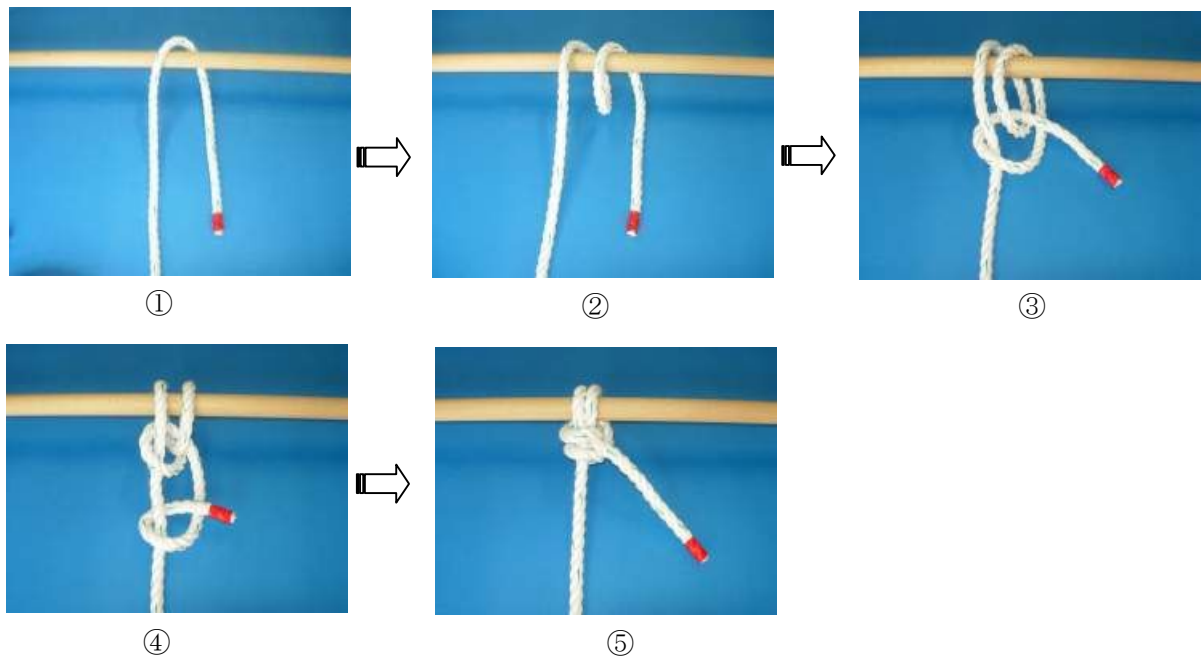
リーフ のつと ほんむす まむす
(5) リーフ・ノット (本結びまたは真結び)

ロープのきずのてあて ための おうきゅうしょちなど おな ふと ロープ つな あ
ロープのきずのてあて ための おうきゅうしょちなど おな ふと ロープ つな あ
もち たいせつ むす
用いられる大切な結びである。



あんカー ベんど むす
(6) アンカー・ベンド (いかり結び)

ふいっしやーまんず ベんど よ こがたいかり りんぐ むす つか
フィッシャーマンズ・ベンドとも呼ばれ、小型錨のリングに結ぶときに使われる。



かう ひっち むす
 (7) カウ・ヒッチ (ひばり結び)

ろーぷ ちゅうかん いちじてき もの ひ か ゆうこう
 ロープの中間を一時的に物に引っ掛けるときに有効である。



ろーぷ はし しより
 11. ロープの端の処理

ばっくすぷらいす
 (1) バックスプライス

かくすとらんど
 ①各ストランドを a、b、c とする。

てまえ
 ②a を手前にもってくる。

すとらんど そとがわ お
 ③b で a ストランドの外側から押さえる。

そとがわ お わ い くらうん・のつと よ
 ④c は b の外側から押さえ、a の輪に入れる。「クラウン・ノット」と呼ばれる。

く あ すとらんど し かくすとらんど お かせ
 ⑤組み合わせたストランドをしっかりと締めてから各ストランドを折り返し、それぞれのストランドに差す。

かくすとらんど かいじょうさ い かんりょう
 ⑥各ストランドを 3 回以上差し入れて完了。



あいすぷらいす
(2) アイスプライス

かくすとらんど
①各ストランドを a、b、c とする。

すとらんど さ い
②a をストランドに差し入れる。

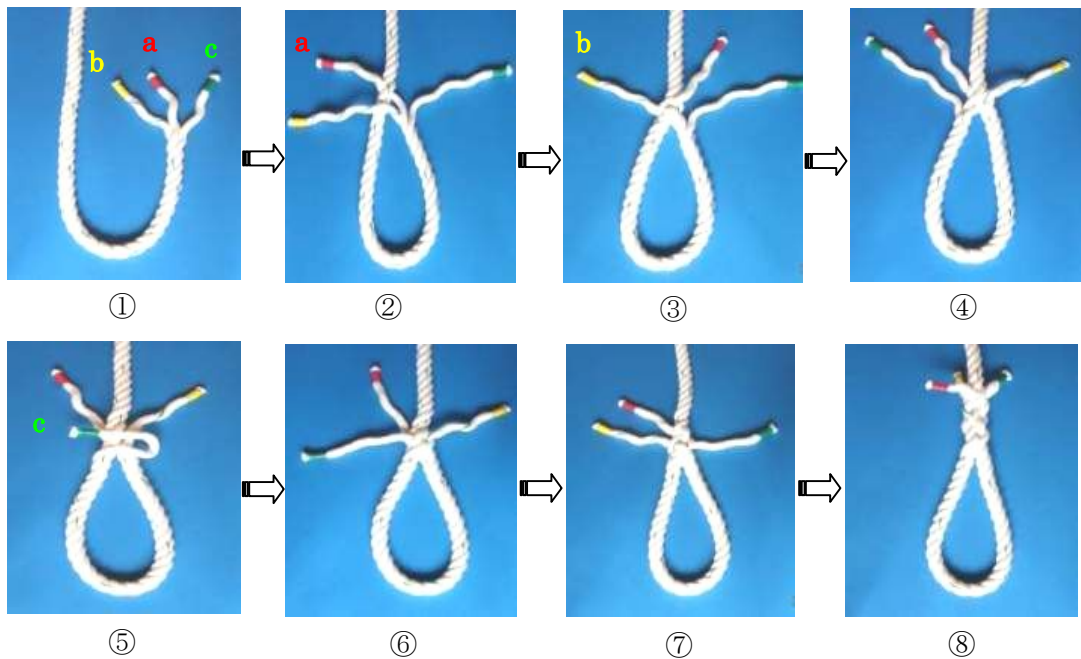
い すとらんど したがわ すとらんど さ い
③a を入れたストランドの下側に b をのストランドを差し入れる。

ろーぷ うら かえ
④ロープを裏に返す。

ほか すとらんど やじるし ほうこう さ い
⑤c は他のストランドに矢印の方向に差し入れる。

ほん すとらんど し かいめ い
⑥, ⑦3本のストランドをしっかりと締めて、2回目を入れる。

かくすとらんど かいじょうさ かんりょう
⑧各ストランドを3回以上差して完了。



しよーとすぶらいす
 (3) ショートスプライス

りょうほう ろーぶ すとらんど と
 ①両方のロープのストランドを解く。

かくすとらんど く あ
 ②各ストランドを組み合わせる。

みぎがわ ろーぶ かくすとらんど ひだりがわ かいさ
 ③右側のロープの各ストランドを左側に1回差し、

けい さ
 ④計3回差しす。

たほう ろーぶ すとらんど かいさ
 ⑤他方のロープのストランドを3回差しす。

そうほう かくすとらんど いじょうさ かんりょう
 ⑥双方から各ストランドを3回以上差しして完了。



①



②



③



④



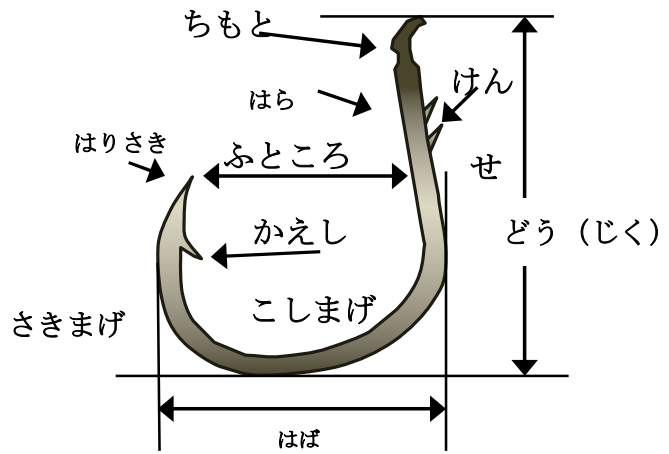
⑤



⑥

つりばり
12. 釣針

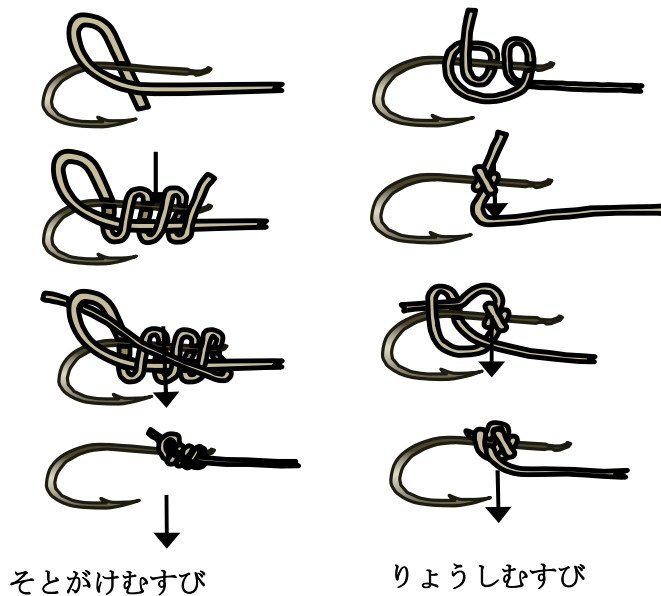
にほん さかな しゅるい おお
 日本では魚の種類や大きさに
 あ かずおお つりばり つく つか
 合わせて数多くの釣針が作られ使
 われている。基本的な釣針の構造
 きほんてき つりばり こうぞう
 および各部名称は、図9の通り。



ず つりばり
 図9 釣針のこうぞう

はりす むす かた
(1) ハリスと結び方

つりばり むす ほそ いとるい はりす さきいと よ つりばり みきなわ えだなわ
 釣針に結ぶ細めの糸類をハリス（先糸）と呼ぶ。釣針と幹繩あるいは枝繩をか
 みきなわ つな やくわり は たいしょうぎよるい るい
 いして幹繩に繋ぐ役割を果たす。対象魚類が、いしだい、ふぐ類、たちうおの
 は するど さかな ばあい きんぞく はりがね わ いやー るい つか ばあい
 ような歯が鋭い魚の場合は、金属の針金（ワイヤー）類が使われる。この場合、
 つ ばり ちか ぶぶん はりがね つづ ないろんてぐす つな
 釣り針に近い部分（10～30cm）を針金にして、それに続けてナイロンテグスを繋
 げて全体としてハリスとする。釣針とテグスの結び方は、多いが簡単な釣針の結
 び方を図10に示す。



ず かんたん つりばり むす かた
 図10 簡単な釣針の結び方

(2) よりもどしの結び方

よりもどしは幹縄、枝縄およびハリスに撚りが入るのを防止する部品。通常大きなものはよりもどし、小さいものはサルカンと呼ばれる。よりもどしとテグスの簡単な結び方を図11に示す。

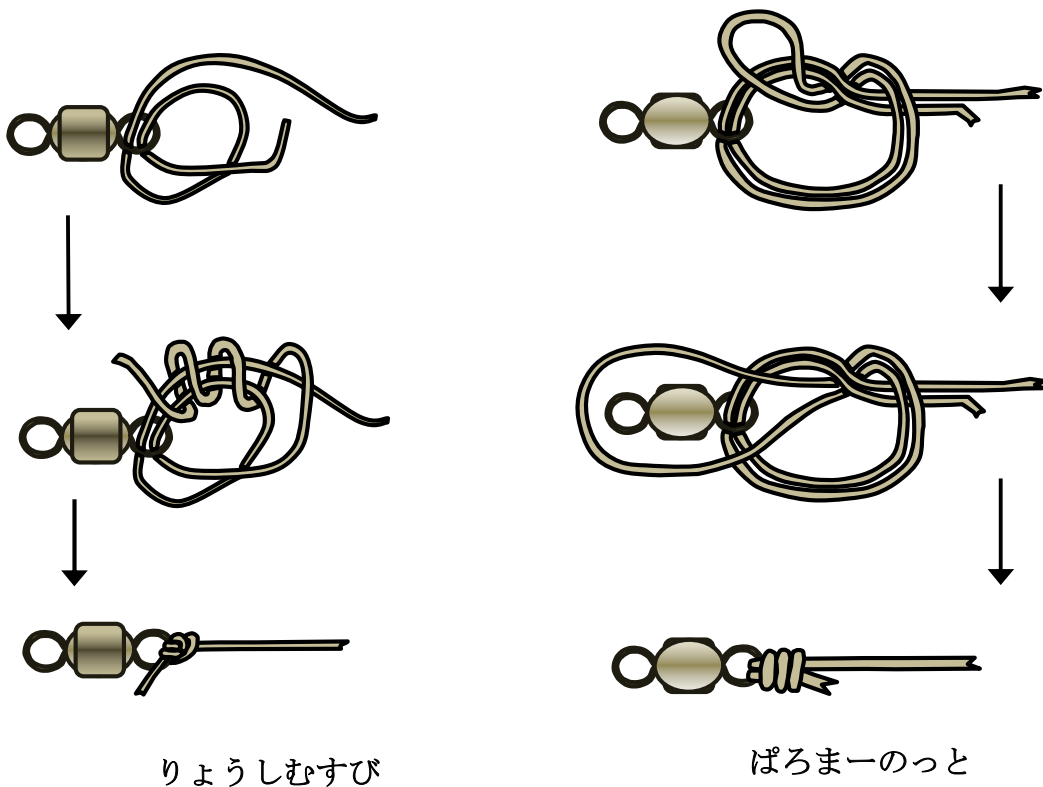


図11 よりもどしの結び方

13. 漁労機器

げんざい ぎよせん きかいか すす すく のりくみいん おお ぎよぐ つか こうりつか
現在の漁船は、機械化が進められ、少ない乗組員で大きな漁具を使い効率化が
はか でありつく くれーん きゃぶすたんなど ひかくてききょうつう どうさい
図られている。デリック、クレーン、キャブスタン等は比較的共通して搭載さ
れれているが、主体の漁労機器は、漁業種類により異なり、主なものは次の通り
である。

はえなわぎよぎょう 延縄漁業

らいんほーらー あ なわき (1) ラインホーラー(揚げ縄機)

はえなわ みきなわ まきあ きかい
延縄の幹縄を巻上げる機械



えだなわま と き (2) 枝縄巻き取り機

はえなわ えだなわ ま と こいるじょう きかい
延縄の枝縄を巻き取りコイル状にする機械



(3) 投縄機

なげなわき
はえなわ えだなわ みきなわ
延縄の枝縄をとりつけた幹縄
ふね な と きかい
を船から投げ飛ばす機械。



さ あみぎよぎょう
刺し網漁業

ようもうき
(1) 揚網機

さ あみ まきあ きかい あ ぼがわ いわがわ べつべつ あ いっぼんてき
刺し網を巻上げる機械。浮子側と沈子側を別々に揚げるのが一般的だが、ま
あ
めて揚げることもある。



そうもうかん
(2) 送網管

せんじょう あ さ あみ ともがわ しゅうのうぼしよ いそう ぼいぶ
船上へ揚げた刺し網を艫側の収納場所へ移送するためのパイプ。



さ あみ しゅうのうばしよ せいたん あみさばきき ネットキャリアー
(3) 刺し網の収納場所と製反のための網捌機 (ネットキャリアー)。



いっぽんづ ぎよぎょう
かつお一本釣り漁業

さんすいそうち
(1) 散水装置

しゅうぎよ さんすいきかい
かつおを集魚・とどまらせるための散水機械



あみぎよぎょう
まき網漁業

ようもうき ネットホーラー
(1) 揚網機 (ネットホーラー)

あみ あ きかい
まき網を揚げる機械



かんまきう いんち ぼーすういんち
 (2) 環巻ウインチ (パースウインチ)

あみ あみすそ し わいヤー まきあ ういんち
 まき網の網裾を締めるためのワイヤーを巻上げるウインチ



かんまきだびっど
 (3) 環巻ダビッド

あみすそ し わいヤー つりあ だびっど
 網裾を締めるためのワイヤーを吊上げるダビッド



あみ さば ぼわーぶろっく
 (4) 網を捌くパワーブロック

ようもうき ねっとほーらー あ あみ つりあ せいたんさぎょう つか きかい
 網揚機 (ネットホーラー) で揚げた網を吊上げて製反作業に使う機械



さいどろーらー
(5) サイドローラー

あみ こうはん あ つか げんがわ と つ かいてん ぼうじょう ようもう き
網を甲板に揚げるために使う舷側に取り付けた回転する棒状の網揚機



そこびきあみぎょぎょう
底曳網漁業

えいさく わーぶ ういんち わーぶういんち
(1) 曳索 (ワープ) ウインチ (ワープウインチ)

あみ ひ えいさく わーぶ ひきづな ま こ ういんち
網を曳く曳索 (ワープ) あるいは曳網を巻き込むウインチ



おったーぼーど
(2) オッターボード

あみぐち ひろ かくもうばん
網口を拡げる拡網板



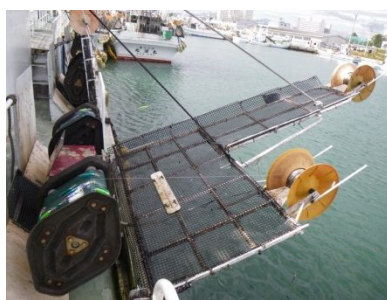
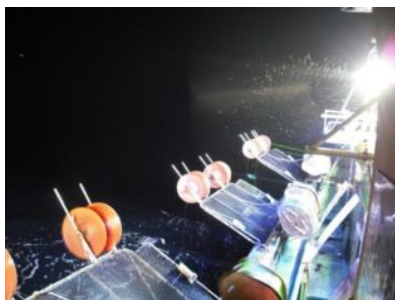
あみ ぐらんど
(3) 網のグラント



つぎぎょう
いか釣り漁業

じどう つき
(1) 自動いか釣り機

ふくすう つりぐ つ てぐす かいちゆう つりさ じどうてき じょうげ
複数のいか釣具が付いたテグスを海中に吊下げ、自動的に上下させていかを
ぎょかく きかい
漁獲する機械



しゅうぎょう
(2) 集魚灯

しゅうぎょう でんとう
いかを集魚する電灯



ていあみぎぎょう
定置網漁業

ぼーろーらー きゃっちほーらー
(1) ボールローラー (キャッチホーラー)

ていあみ はこあみ しぼ つか こ かいんぼーる あみ はさ ようもう きかい
定置網の箱網を絞るときに使う2個の回転ボールで網を挟んで揚網する機械



ろーぶま あ ろーらー た ろーらー
 (2) ロープ巻き上げローラー (立てローラー)、

ていあみ はこあみ しぼ つか あみ とりつ ひきあ ろーぶ まきあ ろーらー
 定置網の箱網を絞るときに使う網に取付けた引揚げロープを巻上げるローラー



ぎよぎょう
 かご漁業

あ なわき
 (1) 揚げ縄機

と つ みきなわ まきあ きかい
 かごが取り付けられている幹縄を巻上げる機械



ぼうけあみぎよぎょう
 棒受網漁業

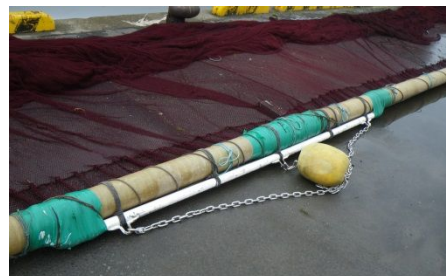
ただんしきまきあげういんち
 (1) 多段式巻上ウインチ

あみ したがわ と つ ひきあ つな わいやー どうじ まきあ きかい
 網の下側に取付けた引揚げ網 (ワイヤー) を同時に巻上げる機械



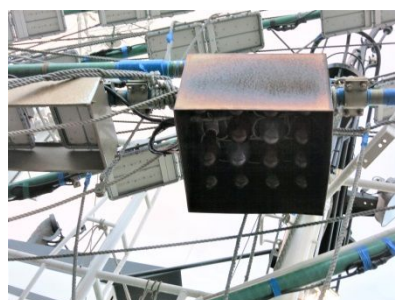
むかいたけ
(2) 向竹

あみ つりさ ばいぶ たけ ぼーる
網を吊下げるパイプ (竹・ポール)

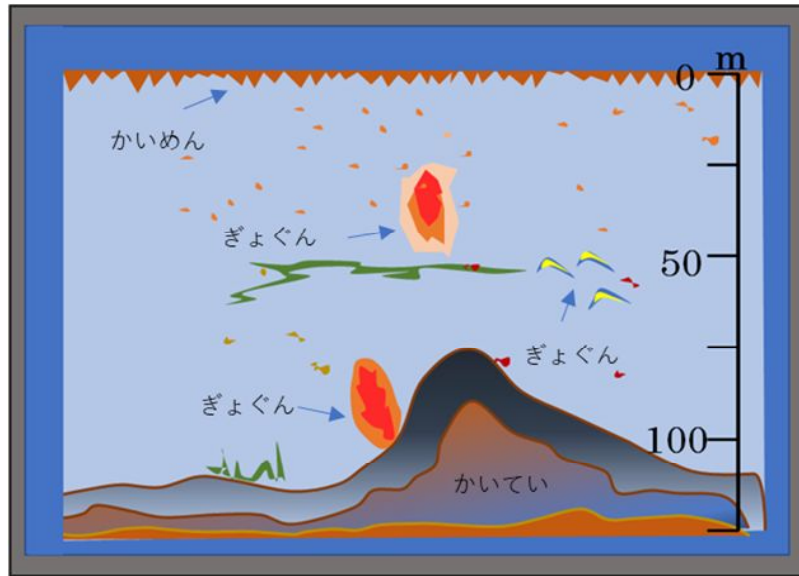


しゅうぎょうさお
(3) 集魚灯竿

さかな しゅうぎょう あか と つ さお
魚を集魚するための灯りを取り付けた竿



ぎょぐんたんちき
14. 魚群探知機



ぎょぐんたんちき (魚探) とは、水中に超音波を発射し、その超音波が物体に当たり
反射することで魚群の位置や大きさ、水深、海底の様子などを画像上に映し出す
電子機器である。魚探画像は画面に向かってスケール (深さの目盛) のある側か
ら反対方向へ動き、スケールのある側が一番新しい情報となる。

また、超音波が当たる物体の密度が高いほど反応が強くなり、反応が強いも
のは赤色やオレンジ色で、弱い反応は青色や緑色で表示される。そのため、反応
の強さ (色) で魚の量や大きさを判断することができる。画像の中で魚群は空
に浮かぶ雲のような塊で、一匹の魚はブーメラン (「∧」) のような形で表示
される。

また、画面一番上の層状の反応は海面を示している。画像右端には水深を示
す目盛りがあり、これを利用して反応の水深を判断することができる。